

青森県経済統計報告

平成 29 年 8 月 4 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 29 年 7 月 1 日現在)..... 1

県人口 1,280,651 人 (対前月 810 人減少)	
自然動態	674 人減少 (出生者数 643 人、死亡者数 1,317 人)
社会動態	136 人減少 (転入者数 1,193 人、転出者数 1,329 人)

2 本県の経済動向 (平成 29 年 5 月・6 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは50.8、先行き判断DIは51.5といずれも2期連続で50を上回った。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 29 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 111.2 で、前月比 4.5%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 113.5 で、前年同月比 14.3%の上昇となり、4 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 29 年 5 月の**定期給与**は 218,105 円で前年同月比 3.2%増となった。 ... 3
総実労働時間は 149.4 時間で前年同月比 3.8%増、**所定外労働時間**は 10.9 時間で前年同月比 13.9%増となった。
・平成 29 年 6 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.25 倍で、前月を 0.03 ポイント上回った。
- (2-3) 物 価 平成 29 年 6 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 100.5 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 1.0%の上昇となった。 ... 5
また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.3 となり、前月比 0.2%の上昇、前年同月比 0.4%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 ・平成 29 年 6 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 133 億円で前年同月比 0.7%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 0.7%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 6
・平成 29 年 6 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 4,251 台で、前年同月比 22.4%増となり、9 カ月連続で前年同月を上回った。
・平成 29 年 6 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 864 千人で前年同月比 4.3%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 137 千人で前年同月比 1.5%増となり、4 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・平成 29 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 594 戸で、前年同月比 2.6%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。 ... 7
・平成 29 年 6 月の**公共工事請負額**は 188 億 4,700 万円で前年同月比 13.6%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 平成 29 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 2 件で前年同月比 60.0%減となった。 ... 8
負債総額は 5,500 万円で前年同月比 96.5%減となった。

(3) 景気動向指数CI (平成 29 年 5 月分) 9

先行指数	142.1 (前月を 6.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した)
一致指数	195.7 (前月を 14.7 ポイント上回り、5 カ月ぶりに上昇した)
遅行指数	116.6 (前月を 0.8 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 29 年 7 月期) 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	50.8(前期比 0.2 ポイント減、2 期連続で 50 を上回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI	51.5(前期比 1.3 ポイント減、2 期連続で 50 を上回る)

1 青森県の推計人口（平成29年7月1日現在）

【概況】

平成29年7月1日現在の本県推計人口は、1,280,651人で、前月に比べ810人の減少となった。

○自然動態

出生者数が643人、死亡者数が1,317人で、674人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,193人、転出者数が1,329人で、136人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総計	性別		対前月 増減率	増減数	自然増減数			社会 増減数	社会増減数	
		男	女			出生者数	死亡者数	県外からの 転入者数		県外への 転出者数	
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
28. 7. 1	1,295,463	608,413	687,050	-0.062%	-803	-641	689	1,330	-162	1,126	1,288
28. 8. 1	1,294,831	608,132	686,699	-0.049%	-632	-532	716	1,248	-100	1,637	1,737
28. 9. 1	1,294,209	607,941	686,268	-0.048%	-622	-641	803	1,444	19	1,752	1,733
28.10.1	1,293,681	607,729	685,952	-0.041%	-528	-594	742	1,336	66	1,478	1,412
28.11.1	1,293,130	607,473	685,657	-0.043%	-551	-677	758	1,435	126	1,353	1,227
28.12.1	1,292,212	607,074	685,138	-0.071%	-918	-802	711	1,513	-116	1,002	1,118
29. 1. 1	1,291,206	606,639	684,567	-0.078%	-1,006	-819	666	1,485	-187	920	1,107
29. 2. 1	1,290,008	606,029	683,979	-0.093%	-1,198	-1,115	704	1,819	-83	978	1,061
29. 3. 1	1,288,791	605,418	683,373	-0.094%	-1,217	-857	621	1,478	-360	999	1,359
29. 4. 1	1,282,545	602,241	680,304	-0.485%	-6,246	-900	665	1,565	-5,346	3,993	9,339
29. 5. 1	1,282,136	602,187	679,949	-0.032%	-409	-803	624	1,427	394	3,420	3,026
29. 6. 1	1,281,461	601,833	679,628	-0.053%	-675	-752	738	1,490	77	1,366	1,289
29. 7. 1	1,280,651	601,351	679,300	-0.063%	-810	-674	643	1,317	-136	1,193	1,329

6月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		H.19.6	20.6	21.6	22.6	23.6	24.6	25.6	26.6	27.6	28.6	29.6
自然 動態	出生者数	812	862	780	879	853	692	683	711	750	689	643
	死亡者数	1,173	1,219	1,318	1,289	1,259	1,271	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317
	自然増減数	-361	-357	-538	-410	-406	-579	-546	-572	-607	-641	-674
社会 動態	県外からの 転入者数	1,233	1,366	1,468	1,281	1,506	1,270	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193
	県外への 転出者数	1,742	1,715	1,477	1,342	1,479	1,236	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329
	社会増減数	-509	-349	-9	-61	27	34	-55	-194	-114	-162	-136
増減数計		-870	-706	-547	-471	-379	-545	-601	-766	-721	-803	-810

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

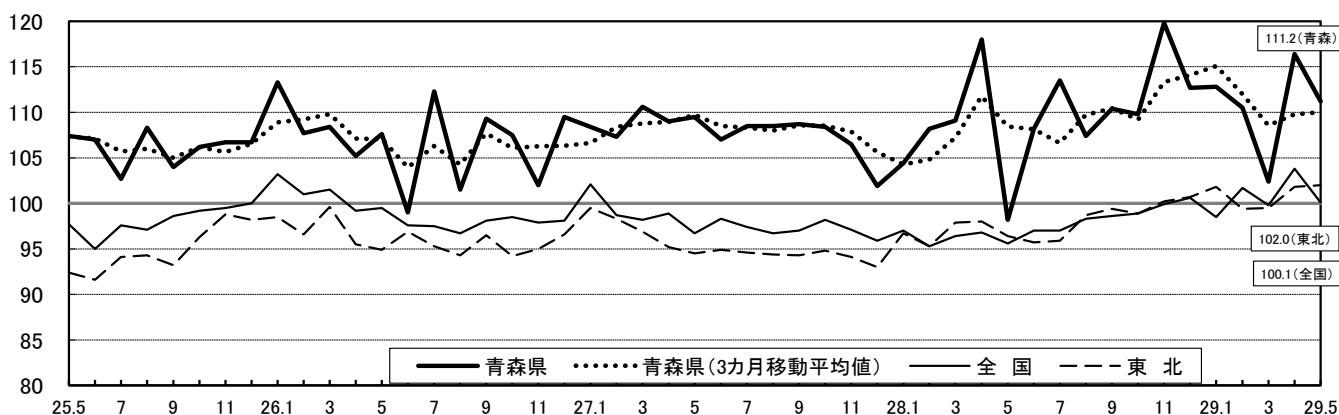
(2-1) 生産動向

平成29年5月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が111.2で、前月比4.5%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は113.5で、前年同月比14.3%の上昇となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、非鉄金属工業、生産用機械工業、輸送機械工業などが上昇に寄与した一方、金属製品工業、電気機械工業、業務用機械工業などが低下し、鉱工業全体では4.5%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

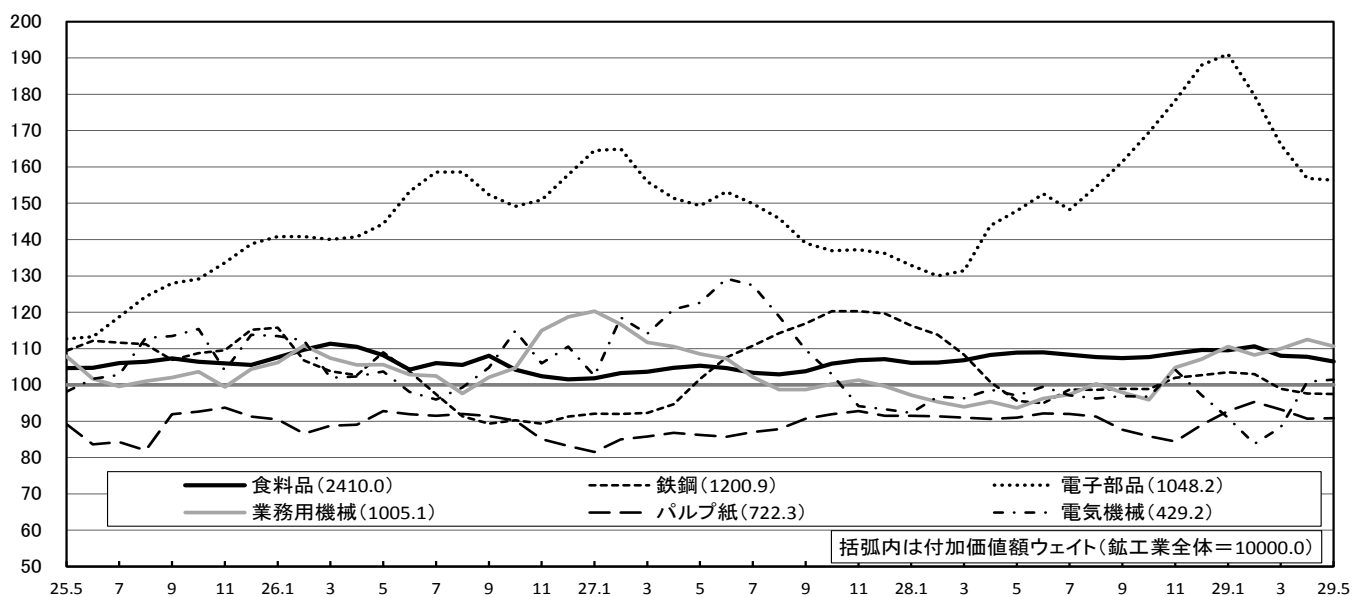


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -4.5%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
非鉄金属工業	95.4	86.3	金属製品工業	-17.2	-57.2
生産用機械工業	19.9	38.9	電気機械工業	-19.3	-52.3
輸送機械工業	10.2	27.3	業務用機械工業	-4.3	-27.4
情報通信機械工業	53.8	25.2	電子部品・デバイス工業	-2.5	-22.3
化学工業	7.2	22.4	食料品工業	-0.3	-3.9

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



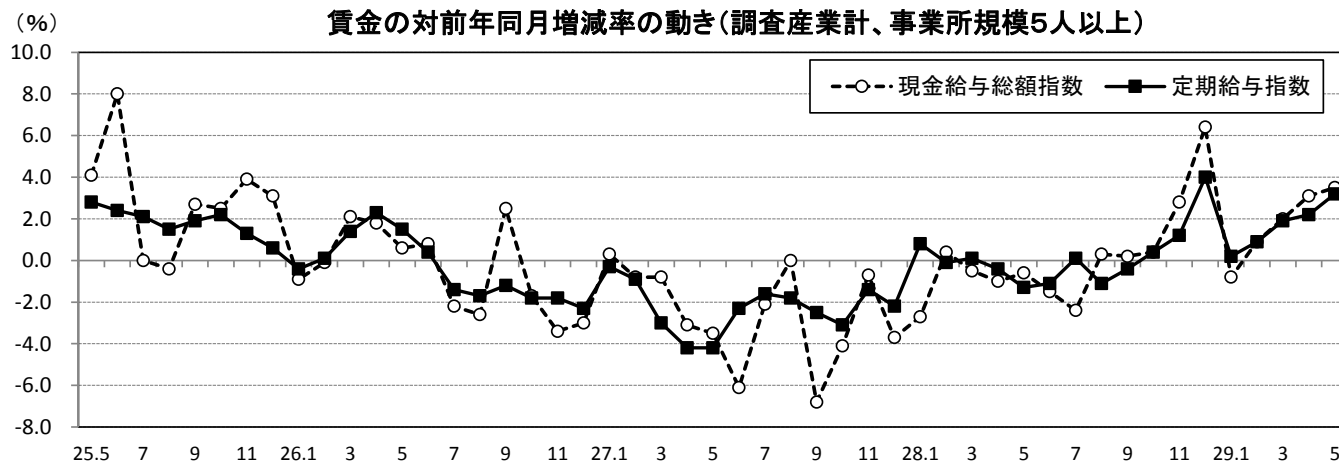
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成 29 年 5 月の定期給与は 218,105 円 で、定期給与指数（平成 27 年=100）では 101.0 となり、前年同月比 3.2%増と 8 カ月連続の増（現金給与総額 224,120 円、現金給与総額指数 89.3、前年同月比 3.5%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は 84.0 となった。

総実労働時間は 149.4 時間で、総実労働時間指数は 96.6 となり、前年同月比 3.8%増と 6 カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は 10.9 時間で、所定外労働時間指数は 94.8 となり、前年同月比 13.9%増と 6 カ月連続の増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

賃金及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

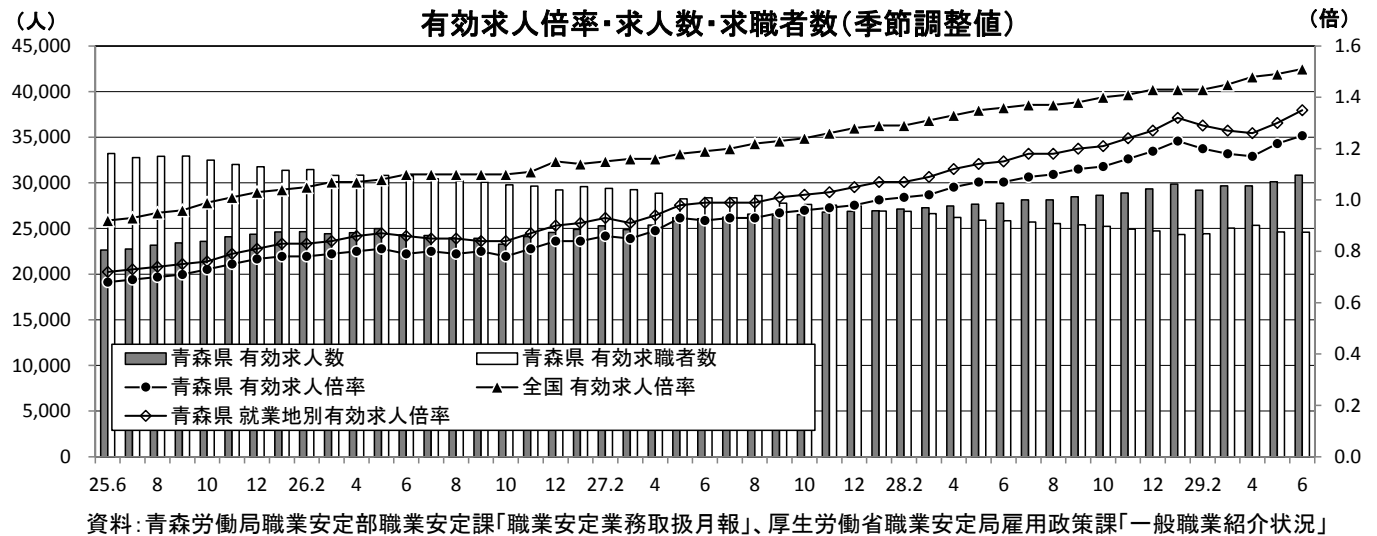
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	224,120 円	269,968 円	89.3	86.1	3.5 %	0.6 %
定期給与	218,105 円	259,541 円	101.0	100.1	3.2 %	0.5 %
特別給与	6,015 円	10,427 円	—	—	—	1.3 %
総実労働時間	149.4 時間	139.6 時間	96.6	96.6	3.8 %	1.0 %
所定内労働時間	138.5 時間	129.0 時間	96.8	96.6	3.0 %	1.0 %
所定外労働時間	10.9 時間	10.6 時間	94.8	96.4	13.9 %	1.6 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

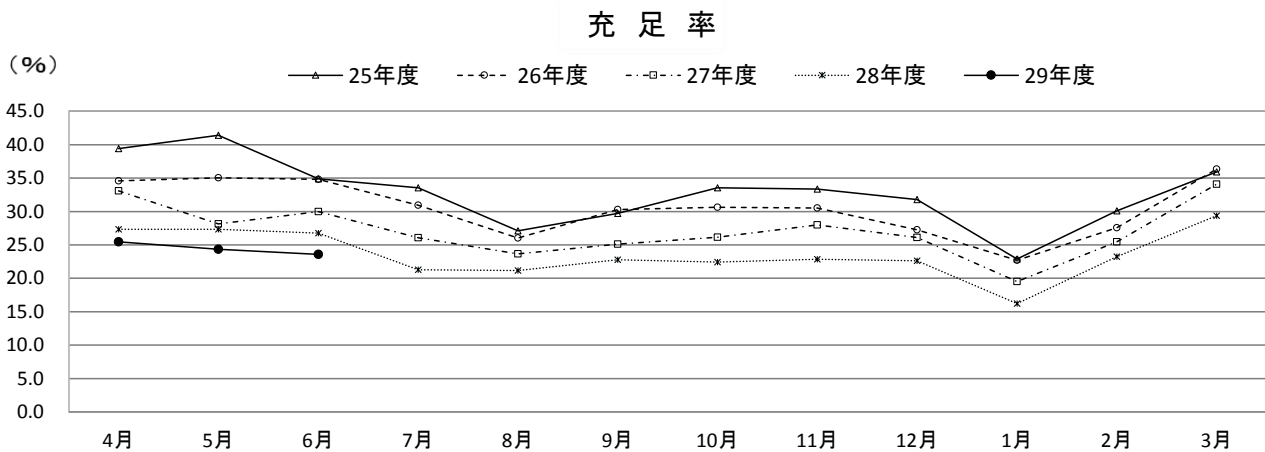
(2-2-2) 有効求人倍率

平成29年6月の有効求人倍率（季節調整値）は1.25倍で、前月を0.03ポイント上回り、2カ月連続で前月を上回った。就業地別有効求人倍率は1.35倍で、前月を0.05ポイント上回り、2カ月連続で前月を上回った。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

平成29年6月の充足率は23.6%で、前年同月と比べ3.1ポイント下回った。



(2-3) 物価

平成29年6月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が100.5となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.0%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.7となり、前月と同水準、前年同月と比べ1.2%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.4%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、家具・家事用品(寝具類など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.0%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、食料(生鮮魚介など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

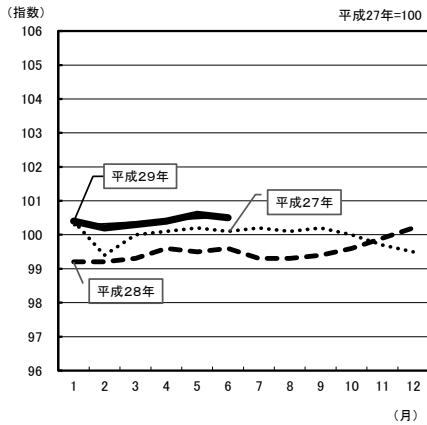


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

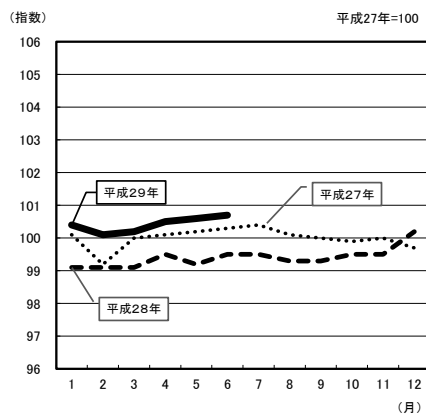
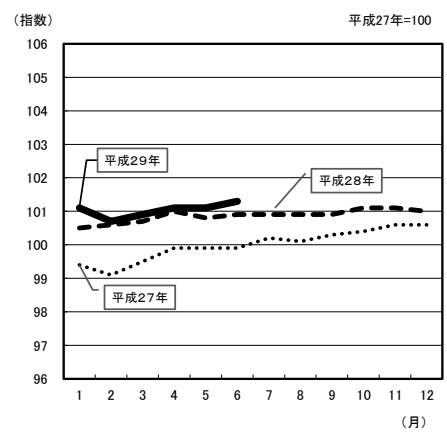


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被及履	服	保	健康	交通・通信	教育	教	養	諸	
	合	品	品	料	料	食	居	道	用	履	物	医	療	信	育	育	楽	費	
当月指数	100.5	100.7	101.3	100.6	103.1	97.5	100.0	96.7	99.0	102.3	100.6	97.4	102.5	103.1	100.7				
前月比(%)	▲0.1	0.0	0.2	0.3	0.2	▲2.1	0.0	▲0.7	▲1.5	0.6	0.2	▲0.5	0.0	0.7	0.0				
寄与度	—	0.02	0.18	0.17	0.05	▲0.10	▲0.01	▲0.08	▲0.06	0.02	0.01	▲0.06	0.00	0.05	0.00				
前年同月比(%)	1.0	1.2	0.4	▲0.1	1.6	▲3.0	▲0.5	5.4	▲0.6	0.0	▲0.3	▲0.2	0.5	1.9	▲0.5				
寄与度	—	1.10	0.38	▲0.04	0.43	▲0.15	▲0.11	0.55	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.02	0.01	0.16	▲0.03				

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

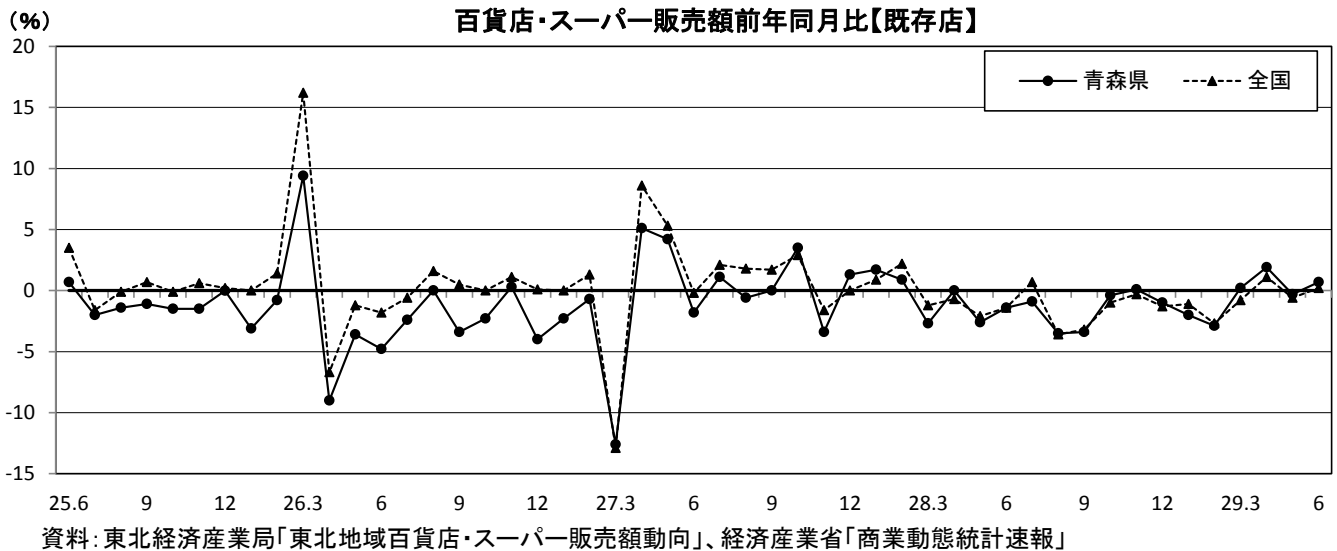
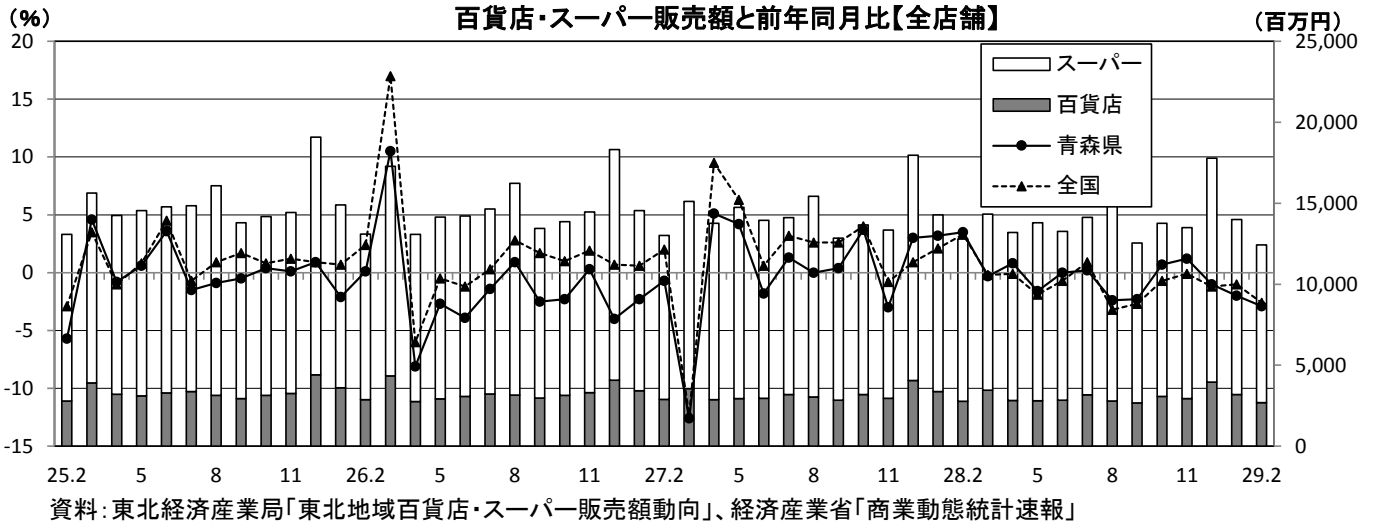
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

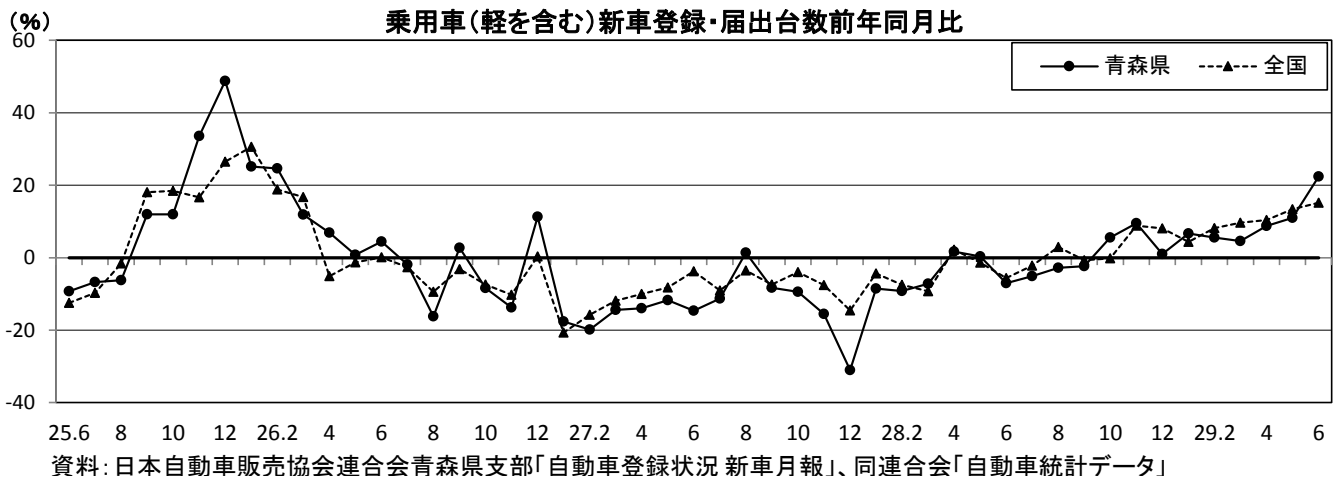
平成29年6月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが133億円で前年同月比0.7%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比0.7%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

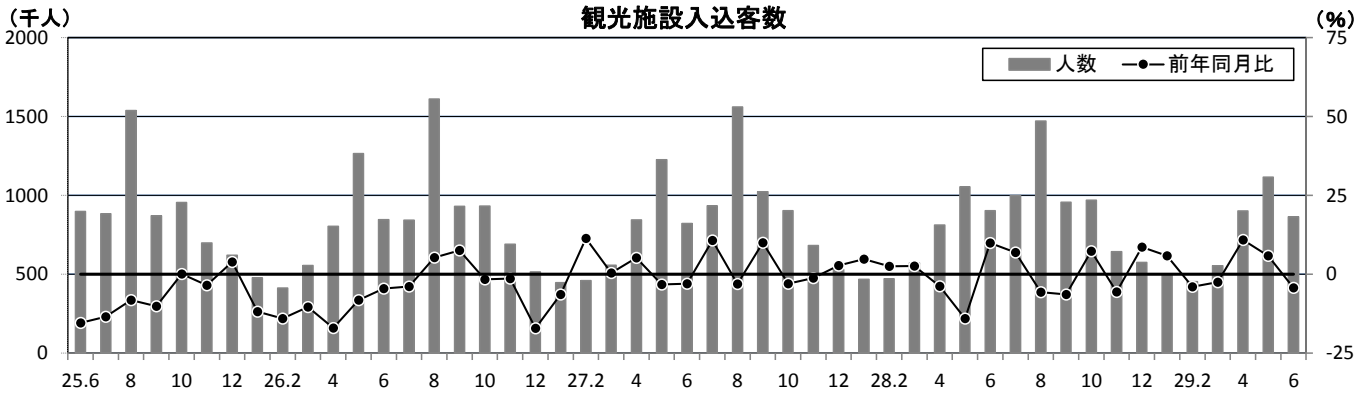
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出数

平成29年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出数は4,251台で、前年同月比22.4%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車、軽自動車が増加したことによる。

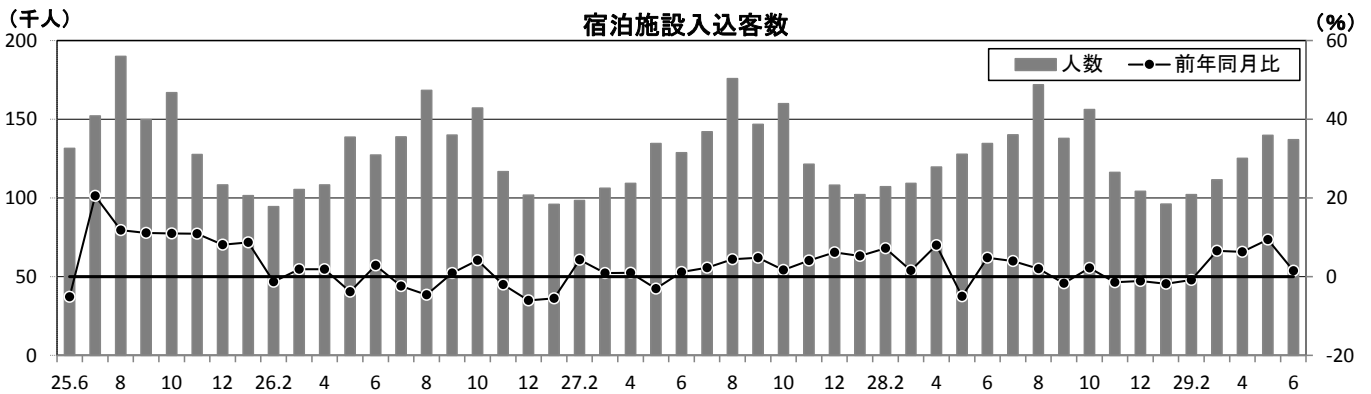


(2-4-3) 観光入込客数

平成29年6月の観光入込客数は、主な観光施設が864千人で前年同月比4.3%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は137千人で前年同月比1.5%増となり、4カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は青森市、五所川原市等の施設で減少し、宿泊施設は弘前市、八戸市等の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

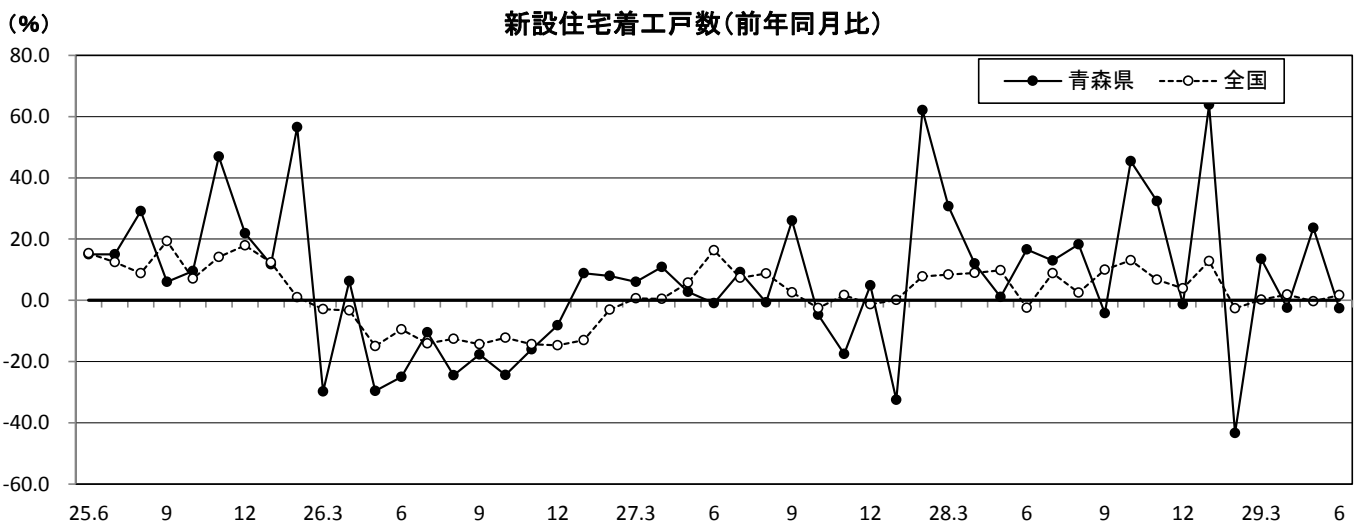


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

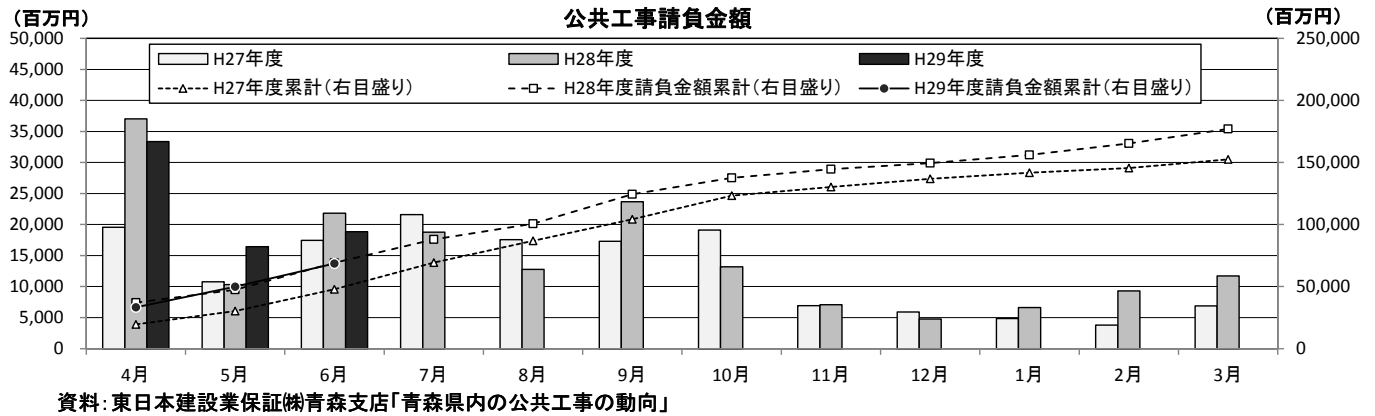
平成29年6月の新設住宅着工戸数は594戸で前年同月比2.6%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。持家、貸家、分譲住宅が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

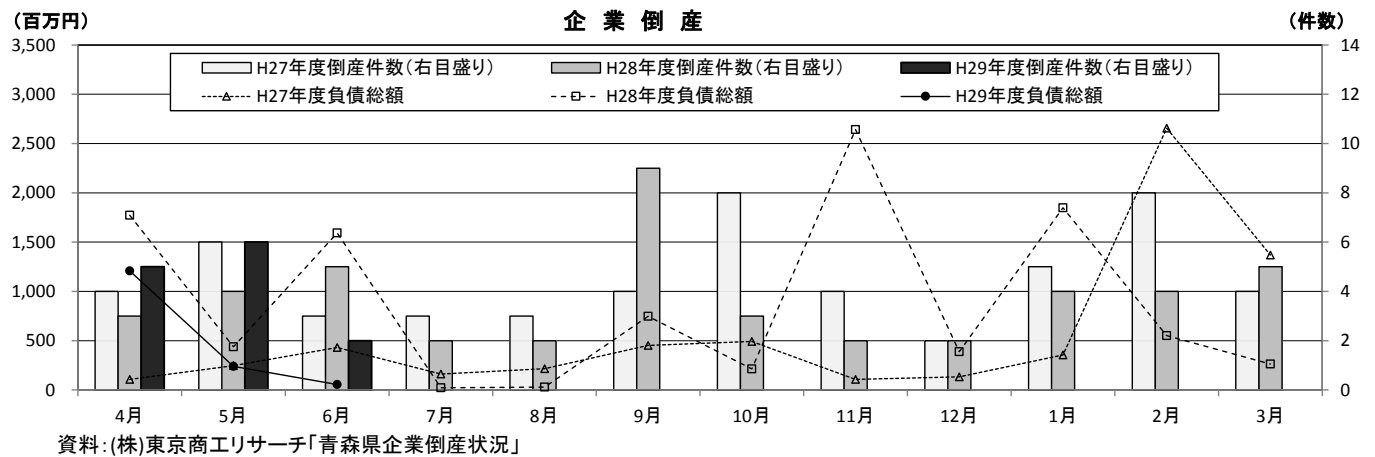
(2-5-2) 公共事業

平成29年6月の公共工事請負金額は188億4,700万円で前年同月比13.6%減となり、国、県等の減少により2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、平成29年6月までの累計金額は686億6,100万円で前年同期比0.8%減となった。



(2-6) 企業倒産

平成29年6月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比60.0%減となった。負債総額は5,500万円で前年同月比96.5%減となった。負債総額の前年同月比は、10億円を超える大型倒産の発生がなく、倒産件数も減少したことから減少した。また、平成29年6月までの累計倒産件数は13件で前年同期比8.3%増、負債総額は15億300万円で前年同期比60.5%減となった。



(3) 青森県景気動向指数

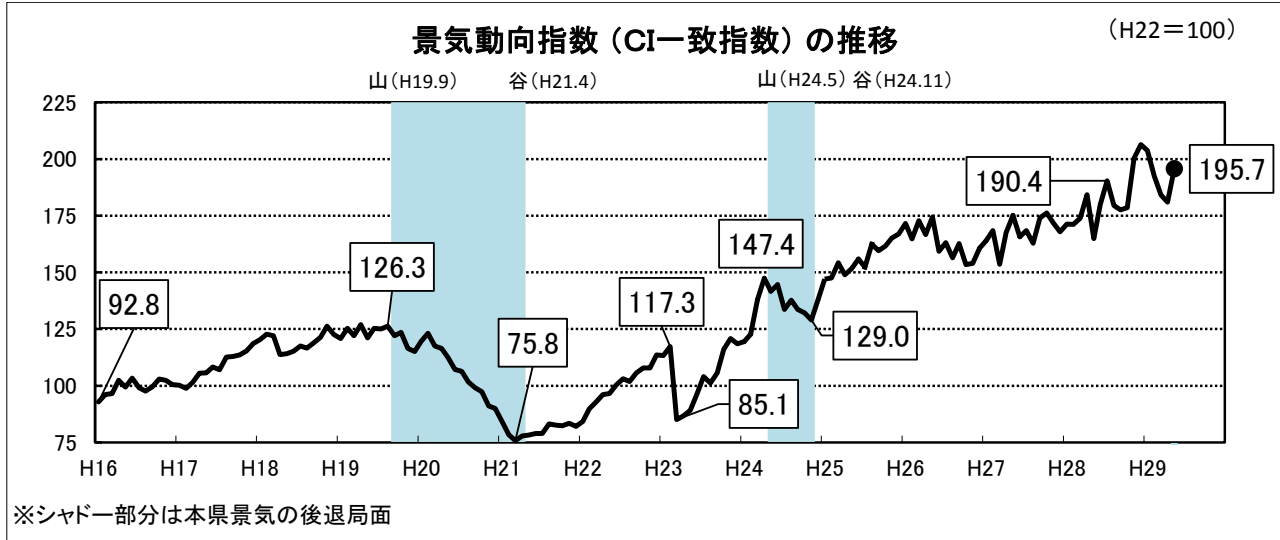
平成29年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 142.1、一致指数 195.7、遅行指数 116.6 となった。

先行指数は、前月を 6.1 ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 14.7 ポイント上回り、5カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 0.8 ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した。

5月の一致指数は雇用・流通関連の指標がプラスになったことから上昇した。



● 個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	6.22	2カ月ぶり	中小企業景況D I	-3.88	4カ月ぶり
生産財生産指数	2.32	2カ月ぶり	企業倒産件数	-2.32	3カ月連続
建築着工床面積	1.90	2カ月連続	日経商品指数（42種）	-0.23	3カ月連続
新設住宅着工床面積	1.10	2カ月ぶり			
乗用車新車登録届出台数	0.90	2カ月連続			
一致系列					
有効求人倍率（全数）	8.40	4カ月ぶり	鉱工業生産指数	-2.57	2カ月ぶり
旅行取扱高	4.77	3カ月ぶり	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-1.52	3カ月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	3.27	2カ月ぶり			
所定外労働時間指数（全産業）	2.12	2カ月ぶり			
投資財生産指数	0.26	2カ月連続			
遅行系列					
公共工事請負金額	2.43	3カ月ぶり	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-2.87	3カ月連続
県内金融機関貸出残高	0.98	4カ月連続	常用雇用指数（全産業）	-0.69	2カ月ぶり
青森市消費者物価指数（総合）	0.74	4カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-0.19	5カ月連続
有効求職者数（全数）	0.33	3カ月ぶり			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	62.5%	（2カ月ぶりに50%を上回った）
一致指数	57.1%	（2カ月ぶりに50%を上回った）
遅行指数	71.4%	（7カ月連続で50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成29年7月期)

現状判断DIは、青森～天津定期便就航の効果や酒税法改正などの影響等があることから、前期比0.2ポイント減少の50.8となった。

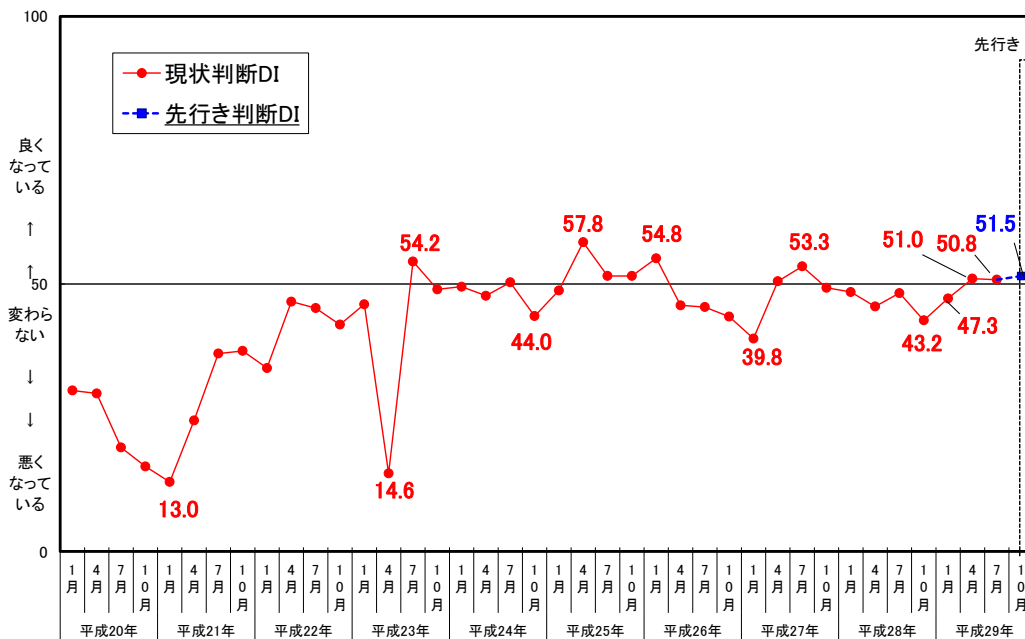
先行き判断DIは、青森駅周辺への商工会議所等の移転及び夏祭り等の観光イベントへの期待感や人手不足の深刻化による影響等があることから、現状判断DIと比べて0.7ポイント増加の51.5となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。

(調査期間 平成29年7月3日～7月26日 回答率99%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が3.0ポイント減少、「変わらない」が3.0ポイント増加、「やや悪くなっている」が2.0ポイント減少、「悪くなっている」が1.0ポイント増加したことにより、全体では0.2ポイント減少の50.8となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。</p>
向	<p>判断理由では、青森～天津定期便就航によるインバウンド客の増加や猛暑による夏物商品の売上げ好調などプラス面をあげる声があった一方で、酒税法の改正による消費減退や人手不足の深刻化などといったマイナス面をあげる声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区を除く3地区でポイントが減少した。津軽地区と下北地区では景気の横ばいを示す50を上回り、東青地区と県南地区では50を下回った。</p>

● 3カ月後の景気先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が3.1ポイント減少、「やや良くなる」が2.1ポイント減少、「変わらない」が8.1ポイント増加、「やや悪くなる」が3.0ポイント減少、「悪くなる」が増減無しだったことにより、全体では1.3ポイント減少の51.5となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で上回った。</p>
向	<p>判断理由では、青森駅周辺への商工会議所等の移転や夏祭り、JR東日本のアフターDC等によるプラス面をあげる声があった一方で、中国需要や復興需要の停滞、価格競争及び人手不足の深刻化による影響などを懸念する声があった。</p> <p>地区別では、前期調査と比べて、津軽地区と下北地区でポイントが減少した。津軽地区は景気の横ばいを示す50を下回り、津軽地区を除く3地区は50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3ヶ月前と比べて景気の現状判断理由

○	今まで継続して厳しかった婦人衣料の売上が回復してきている。(百貨店=東青)
○	天候にも恵まれ、アウガに市役所窓口移転、商工会議所駅前移転、東奥日報社跡地開発、青森駅舎改築東西通路、新町地区ホテル建設、ニコニコ通りマンション新築と少しずつ活性化の動きが見られ景気の期待感の表れてないかと感じる。(衣料専門店=東青)
○	天津定期便などにより来街者や買物客が増えている。(商店街=津軽)
○	夏物、エアコン、冷蔵庫等の動きが良い。(家電量販店=津軽)
○	気候の影響もあり、盛夏商品が好調。(スーパー=下北)
□	A店は変わらないが、夜の業界の不景気によりB店はやや悪くなっている。(コンビニ=東青)
□	クレジットカードで決済するお客様が増えているところを見ると、若干消費者の財布の紐が緩みつつあるのかもしれない。(ガソリンスタンド=東青)
□	当館の場合、3ヶ月前から予約状況が良好に推移している。(観光型ホテル・旅館=津軽)
□	天候が不順のため(商店街=県南)
□	企業の設備投資が動き始めているように感じる。(コンビニ=県南)
□	宿泊客数は増加しているものの、長期の滞在契約等を除けば前年並で推移している。(都市型ホテル=下北)
□	人が足りない。募集しても人がこない。(コンビニ=下北)
□	依然として人手不足気味の傾向にある。弘前市内は土日、飲食店・スーパー等の人も多い。保育・医療等の分野の人手不足。求人に対する応募がない。きれいなところ、楽そうな所に集中しているようだ。(経営コンサルタント=津軽)
△	春の住宅購入と比較すると、時期的な事ですが低下気味。(住宅建設販売=東青)
△	酒税に関連した値上げ時、買いためするのではなくアルコールをやめると言う声が聞こえることが多く、ますます財布の紐はきつくなる(卸売業=県南)
△	食料品の値上がりや、ビールの値上がり 再生エネ賦課金の値上がり？ 財布のヒモが固くなった気がします。(一般小売店=下北)

○3ヶ月後の景気の先行き判断理由

○	金融関係の外回りの話から、この春ごろから創業相談を受けることが多くなったとの事、駅前周辺の活発な動きから設備投資の話が聞こえてくるようになった、確実に景気は上向きだと思います。(衣料専門店=東青)
○	ねぶた祭り本番をむかえるもの。ただ、前年が良かっただけに対前年比では厳しさが予想される。(観光名所等=東青)
○	7月から9月までJR東日本アフターDCが実施されるので。(観光型ホテル・旅館=津軽)
○	観光シーズンに向け、ツアー等の動きがやや活発に見える。(都市型ホテル=下北)
□	ねぶた祭を控え予約状況は例年同様であり、大きな変化はないと思われる。(都市型ホテル=東青)
□	路線価が横ばいとなり底値感が出てきたようです。(商店街=東青)
□	これから依頼される物件は来年分になると思います。設計、建築業界共に今年度の分はいっぱいの方が多いようです。(設計事務所=津軽)
□	お祭期間、お盆などでは、前年同様の動向となると思われるが、これを除くと現状と変化なしと思われる。(百貨店=津軽)
□	猛暑の影響で一部の夏物商品に動きがあるものの、全般的に高額品の動きは鈍く不要不急の消費は控えているように思われるため。(百貨店=県南)
□	昨年よりも業績が少し悪くなっているように思える(客数・組数の減少)(レストラン=下北)
□	中国の需要がバブル的なので、いつしぼむか。ピークアウトを探る動きは取引先からよく話を聞きます。(電気機械製造=県南)
□	消費税の10%もあるし、先行き不透明。(経営コンサルタント=県南)
□	今年の夏は例年より暑い夏になっている。夏物商品等売れることを期待したい。(人材派遣=津軽)
△	我々の業界においてもローコスト住宅が躍進しており地元住宅会社も価格競争におこまれている。(住宅建設販売=津軽)
△	復興需要のストップ、人手不足(旅行代理店=県南)
△	年々空室が増えてきているのがみえる。また、後継者難から店をたたむのも多くなってきた。(建設=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」